

震災から復興へ！ みんなの力でつなぐ 明日への道。

2008年6月に起こった「岩手・宮城内陸地震」。その影響で全面通行止めとなっていた一関市巖美町の国道342号須川～真湯間約15kmが、5月30日開通！岩手と秋田を結ぶ道がつながりました。そこには、道路の早期復旧を目指し一丸となって取り組んできた、地元の方々の強い絆がありました。



国道342号開通の日。よこいソランでイベントを盛り上げた一関市立本寺小学校の児童たち。

特集② 国道342号全線開通！

早期開通を目指す思いが、復旧を後押し！

2年前の6月14日に発生した最大震度6強の地震で、一関市巖美町では、祭時大橋が落橋したほか、土砂崩れも多発し、大きな被害を受けました。その影響で国道342号が全面通行止めとなり、住民の生活や観光産業に大きな影響を及ぼしました。

しかし、当初3年はかかると思込まれていた復旧工事は、2年足らずでほぼ完了。大幅に工期を短縮できたのは、工事関係者や地域団体、住民の皆さんの絆があったからです。

また、復旧工事と併せて、急カーブや道幅の狭い23カ所の改良工事を行い、車の通行がより安全で便利になりました。さらに県では、一関市の要望を受け、落橋した祭時大橋の一部を災害遺構として残すことを決定。震災という経験を生かした世代へ受け継ぐ取り組みも進んでいます。

岩手と秋田を結ぶ大切な道が
つながって一安心です。



宇部建設(株) 土木課長 佐藤浩さん

工事期間中は、各工事会社や行政担当者などで綿密に進捗管理を行いました。情報を共有し、他社の工事も円滑に進むよう調整があったことが、工期短縮につながったと思います。事故もなく無事開通を迎え、ほっとしています。



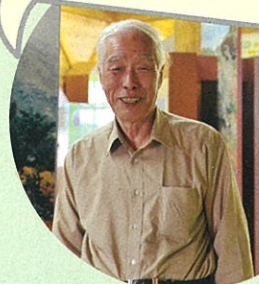
とれたて野菜がいっぱいの
産直に寄って！



産直「柳の里」の皆さん

地震では、この一帯でも約3分の2の世帯が被災。巖美周辺の産直施設が協力あつて、イベントを行い盛り上げてきました。骨寺(ほねでら)村荘園遺跡や須川の大自然は、住民の大切な宝物！みんなで国道沿いの草刈りやゴミ拾いなどを行っています。

よみがえった須川の自然を
みんなで一緒に守って！



NPO法人 須川の自然を考える会 理事長 熊谷健さん

私たちは、須川高原の登山道や木道の整備、自然保護の活動をしています。地震の後、草木が少しずつ再生するのを見て、地球の営みが時間をかけて繰り返されることを実感しています。観光客の皆さんも、一緒に自然を守っていきましょう。

大浴場も広間も新しくなった
須川温泉にお越しください！



須川高原温泉(株) 取締役営業部長 佐藤賢一さん

再開を目指し、社員みんなでがんばってきました。「がんばって」とか「いい湯だった」と、お客様からいただく一言に、改めてこの仕事の喜びを感じます。施設もリニューアルし、新入社員も増えました。スタッフ一同笑顔でお迎えます。

⑤ 須川ビジターセンター



5月30日に開通した区間
「須川～真湯」約15km

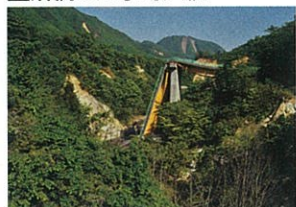


② 産直「柳の里」



地震によって水枯れした湧き水「ぶなの恵み」は、地元の自然保護団体が移設整備し、ドライブの立ち寄りスポットとして人気を集めています。

③ 落橋した祭時大橋



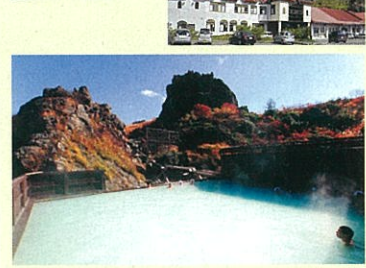
落橋した祭時(まつるべ)大橋は、今年度中の完成を目指して現在整備中。自然の脅威を実感し、防災への思いが強まります。

④ ぶなの恵み



地震によって水枯れした湧き水「ぶなの恵み」は、地元の自然保護団体が移設整備し、ドライブの立ち寄りスポットとして人気を集めています。

⑥ 須川温泉



高山植物



地域を元気に！イベントもいろいろ！！

- よかったね！巖美街道産直市 11月7日(日)まで国道342号沿いで産直市を開催。
- 骨寺村荘園と落橋した祭時大橋見学ツアー 産直市と同日開催。
- 産直等スタンプラリー 国道342号沿線の産直や飲食店、温泉の17施設が参加し、一関の美味しい農産物などが当たるスタンプラリーを実施。
- 一関温泉郷キャンペーン 一関温泉郷の6施設での宿泊が2泊4食ペアで34,200円！6施設の湯めぐりチケット付。

【問】 県南広域振興局経営企画部 0197-22-2812